

■米国：Google, Apple が家庭内の電力ビジネス進出に向けて一歩

2019年1月28日付の現地紙は、Google、Apple が家庭内のインターネット関連事業を通じて電力のビジネス展開に向けた一歩を踏み出していると伝えた。ICT 業界の巨人が直ちに電力供給事業を行うものではないが、この2社はスマートスピーカーやインターネット制御のサーモスタットなどの開発を進め、ホームセキュリティカメラやサーモスタット製造会社を買収しており、これらの機器を通じて個人の電力使用に関する膨大なデータの収集が可能となる。現在は対象となる装置は限られるが、太陽光発電や蓄電池、EVなどが普及すれば、これらもシステムの一部として制御することができる。これが実現すれば、家電やシステムの装置を制御するソフトウェアを提供、管理する企業は、市場において大きな力を持つことになる。Google は米国に加え英国やオランダでも電気事業者と契約を交わし、インターネットに接続する装置の普及を促進している。大手エネルギー会社の元 CEO は「10年あるいは20年後に、米国の電力小売り事業はGoogle やApple が行うことになる」とコメントしている。